

2001年度 海外研修KYOのあけぼの会研修事業

2001年10月22日(月) 於:学研都市木津町

21世紀を安心して暮らせるライフスタイルを求めて

“21世紀を安心して暮らせるライフスタイルを求めて”をテーマに、京都府最南端の学研都市で、紅葉の秋、人生80年代の心豊かな暮らし方を思索しました。いつも、今が快適、人と自然と社会の調和を考える積水ハウス納得工房、福寿園茶研究センター及びRITEでの講演、施設見学、体験を通して、高齢社会のバリアフリーを考え、高齢化時代の暮らしと快適環境を考えることができました。



RITE全景



高齢の方や身体が不自由な方の動作を疑似体験

■ テーマに誘われて参加、多くのことを学びました。 目崎 節子

「21世紀を安心して暮らせるライフスタイルを求めて」をテーマに研修会が、世界の最先端の研究が行われている「けいはんな学研都市」で開催されました。このテーマに興味を持って参加したのは、月末に環境問題の分科会に参加する予定があったのと、台所を電磁器にという思いがあったことでした。始めに積水ハウス総合住宅研究所の納得工房で説明を受け、見学に入りました。玄関や居間は、主婦や見学者の意見、希望を取り入れて作ったという便利で合理的なものでした。その他一番興味のある、お風呂・お便所・台所などバリアフリーのデザインのものの見学、そのとき最近では障害のある人々を対象にするバリアフリーでなく、総ての人が快適に過ごせるユニバーサル・デザインとして制作しているとの説明に、新しい考え方を学ぶことができました。私が見学しなかった電磁器のキッチンのモデルがなかったのは意外でした。次に福寿園の施設でお茶の木の種類、世界各国のティーライフを見せていただき、日本の文化であるお茶室の見学とお抹茶のおもてなしを受け、とても良い気分になりました。3番目は地球環境産業技術研究機構(RITE)の環境に配慮した施設、RITEの本部施設の見学です。「地球に優しい研究所」を基本発想として設計された建物の中の自然涼房、自然通風システムによる研究環境の快適さ、雨水利用による建家循環及び省エネ効果、太陽光発電、燃料電池による新エネルギーの研究など自然の力を有効活用し快適生活の研究がなされている現場の見学は、目をみはるものがありました。私たちが環境、CO₂の問題を、小さいことでも身近なところから地球温暖化防止の気持ちを持って実行していかなければと再認識をしました。

多くのことが学べ、出会いがあり、有意義な研修会を有難うございました。

■ 是非若い人たちにもこの見学体験を 青木 妙子

「21世紀を安心して暮らせるライフスタイルを求めて」というテーマで行われた研修会に参加して、考えることが多くありました。

日頃から、時代に応じて新しい考え方が出来るよう意識的に努力していたつもりなのに、住宅の構造一つについてでも、自分が如何に、固定観念に捕らわれていることが多いか思い知らされました。

例えば、高齢化の生活空間は、出来るだけフラットな段差の無いバリアフリーが良いし、求められてもいると考えていました。

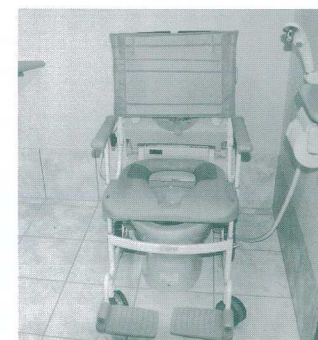
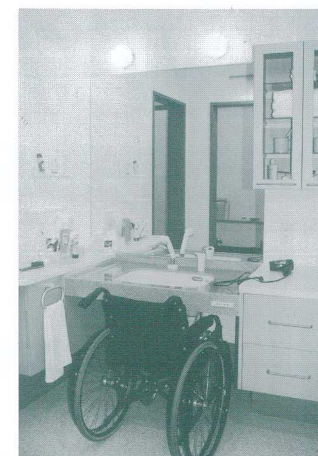
ところが、まず今回、トイレの埋め込みタイプを見て「はっ」としました。バスの浴槽は埋め込みが良いという事を聞いたことも見たこともありませんが、トイレは、手すり、移動椅子、その他の補助具の利用などしか頭に無かった自分に驚きました。

ダイニングやリビングにしても、段差を逆に利用し腰掛けにするなど、公共の場と違って住宅は発想の転換によって多機能な使い方が出来るのだと考えさせられました。

また、高齢化時代をみんなが豊かに生きるために、高齢者だけでなく、むしろ若い世代の方たちに、共に生きる人として、考えるヒントにして欲しいので、この見学体験を大いにしてもらいたいと感じました。

RITEでは、「ファーストステージの、基礎的調査研究の10年が過ぎ、セカンドステージの目的新産業パイロット研究開発の10年に入り、地球環境問題の解決を目指して、世界と協力して新たな技術の開発に、グローバルな研究活動を展開している」と、少ない時間で簡潔明瞭に説明していただけて良かったです。大切な環境問題を勉強するのにこんな素晴らしい場でもっと時間を掛けて勉強したいと思います。

福寿園CHA研究センターも、アロマテラシー的で良かったです。次回は何か一つに絞って学習を深めたいと思います。



車いす体験で使用時の作業性納得

■ 充実した一日でリフレッシュ 大橋 嬉子

横文字ばかりの今日、京都の南にすばらしい施設がある事は知っていたので一度見学したいと思っていました。RITE、積水ハウス、お茶の福寿園を訪れ美味しい京料理をいただきながら充実した一日でした。特に積水ハウスのキッチン、収納の合理的なモデルハウスはいつまでも頭の中から離れません。企画していただいた方々に感謝申し上げます。

■ 地球環境を再確認 武田 公子

地球生物の一単位としての人間が地球環境の問題を考える時、過去の流れを反省し将来への対策をたてなければならぬという思いにかられます。

一市民として身の廻りからすぐにとり上げられる方法として、私達は廃油を処理する為の回収運動が起って、毎月決められた日に決められた場所に家庭廃油を持ち寄り、学区単位で更に大きな回収運動へと広がっています。

地球の汚れを少しでも少なくするという気持ちを、一人ひとりが持つことから、そして、その仲間をひとりでも多く増やす事へと輪をひろげ、小さな一歩がやがて大きく実を結ぶ事を期待して活動しています。

そんな時、10月22日、あけぼの会研修事業として学研都市の先進技術開発に取り組む現場見学へ参加出来、大きな感動と強い刺激を受けました。

そして限りある地球資源を先進国の限られたものだけが享受する事なく、世界中が平等に適切に分配する知恵も共に持たねばと強く願いました。

表紙説明

表紙「けいはんな」は、京都府知事荒巻慎一様の直筆で、インドネシア語(京都府友好国)「あけぼの」の意味です。京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだけ桜さが菊。「木」北山杉。「鳥」オオミスズナギドリ。を戸塚フリス刺しゅうで表現したものを表紙絵としています。